

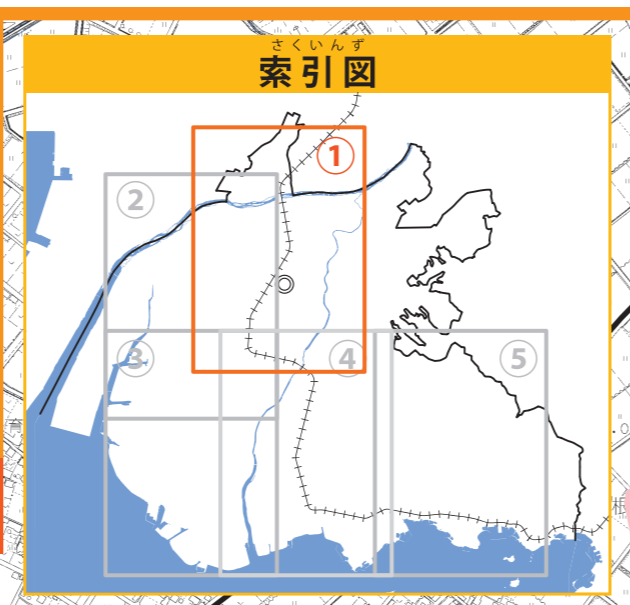


西尾市 堤防の内側の町(堤内地)に水があふれるかもしれないところや、逃げるところを書いた地図

内水ハザードマップ

①西尾・花ノ木・鶴城・ハツ面・西野町・米津地区

発行(作ったところ): 西尾市上下水道部下水道整備課 TEL: 0563-65-2192 危機管理局危機管理課 TEL: 0563-65-2137
発行年月(作った年と月): 令和4年3月



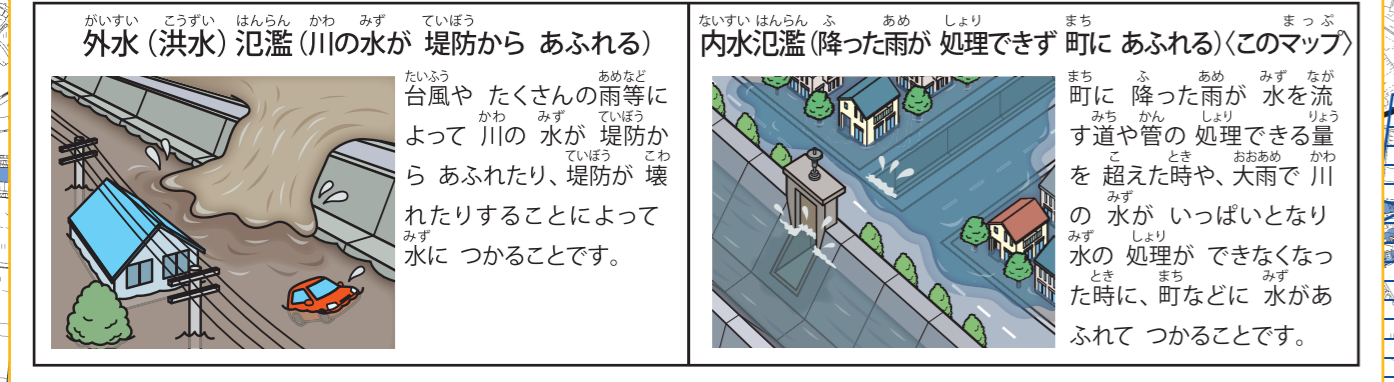
内水氾濫(降った雨が処理できず町にあふれる)の条件

- ◆対象区域は、下水道計画区域(主に市街化区域と市街化区域に流れ込む区域)です。
- ◆水につかることは、1000年に1回程度降るおそれのある雨(考えられる一番の雨の量)で仮に考えられます。これは、1時間に147mm(10分間に31mm)にあたる雨です。
- ※雨の量は、「浸水想定(洪水、内水)の予測のための想定最大降雨(設定手法)」(平成27年7月国土交通省)から決めています。
- ◆一級河川または二級河川の水があふれること(外水氾濫)は考えていません。
- ◆考えられる水につかる場所が実際とちがうことがあります。
- ◆色がついていない場所でも水があふれることがあります。

このマップについて

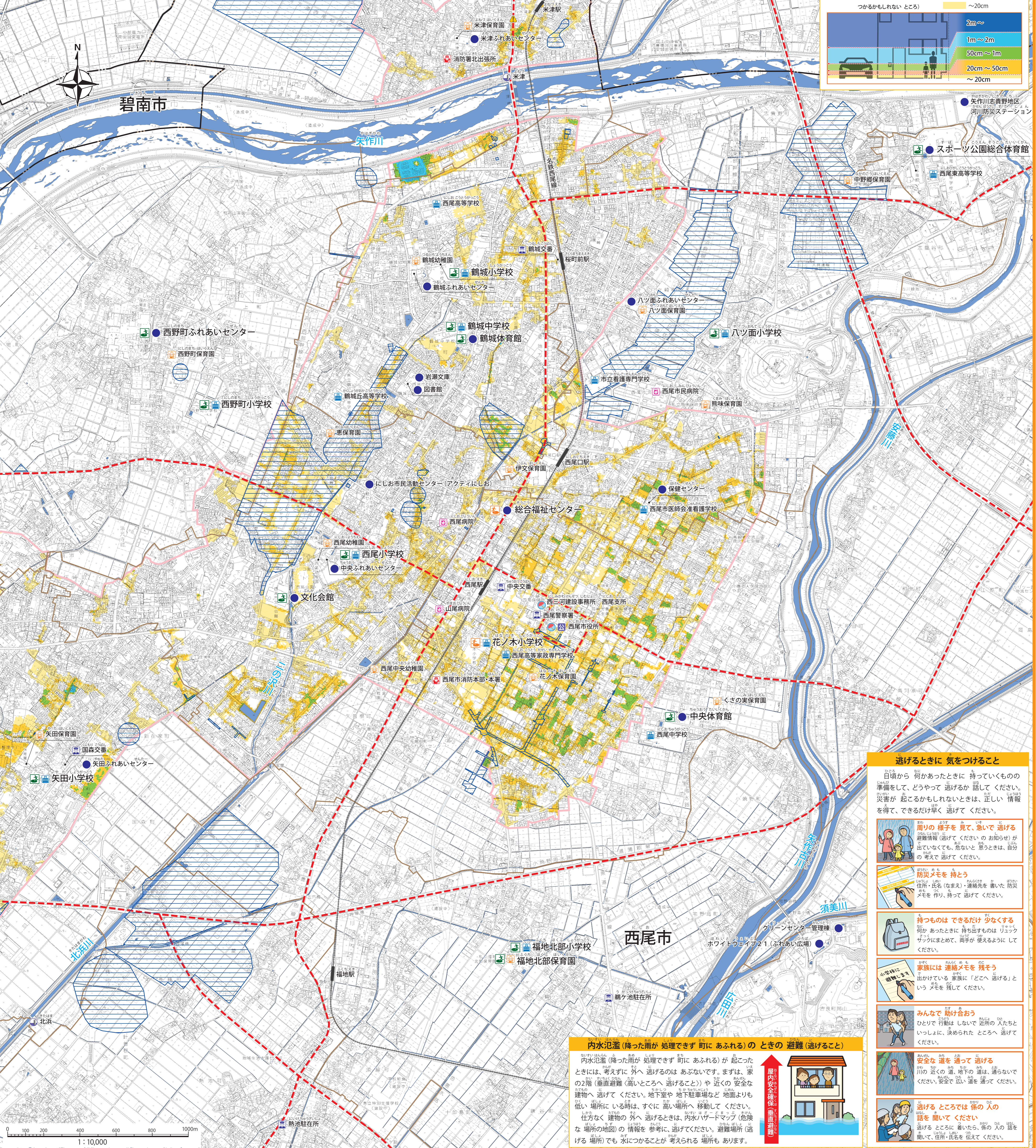
水があふれる被害は、その原因によって二種類に分けられます。ひとつは、堤防が壊れるなど川の水が原因で発生する外水(洪水)氾濫(川の水が堤防からあふれる)による被害です。もうひとつは、川へ流れる水路に処理できる量より多く雨が降ったり、水を流す先の川の水がいっぱいのために水を流すことができなかったりして、水路からあふれることによる発生する内水氾濫(降った雨が処理できず町にあふれる)による被害です。

このマップは、あとのほうの「内水氾濫による水があふれる被害」を仮に考えたマップです。考えられる一番多い雨(1000年に1回程度)を仮に考えたもので、コンピューターによって求められた水につかる場所とその深さをあらわしたものになります。



凡例

指定緊急避難場所(逃げる場所) (指定避難所(生活をするところ))	浸水実績 平成1年より後に建物に水につかっていたところ
大雨により水があふれたときに住むことができる	その他の施設
大雨により水があふれたときに住むことができないところ(避難所が設置されていない)	雨量観測所 (雨の量を測る場所)
学校	水位観測所 (水の高さを測る場所)
市役所・支所	アンダーパス・地下道
警察署・交番・駐在所	
消防署	
救急病院	
幼稚園・保育園	
市界	建物に水につかるかもしれないときの一番の深さ
鉄道	2m~
緊急輸送道路(災害の時に使う大きな道路)	1m~2m
小学校区界	50cm~1m
浸水想定対象区域(解析範囲) (川の水があふれて家が水につかるかもしれないところ)	20cm~50cm
	~20cm



逃げるときに気をつけること

- 日頃から何かあったときに持っていくものの準備をして、どうやって逃げるか話してください。災害が起きるかもしれないときは、正しい情報を得て、できるだけ早く逃げてください。
- 周りの様子を見て、急いで逃げる避難情報(逃げてほしいのお知らせ)が出ているときも、危ないと思えば、自分の考えで逃げてください。
- 防災メモを持って。住所・氏名(含まへ)、連絡先を書いた防災メモを作り、持ち逃げてください。
- 持つものはできるだけ少なく。何かあったときに持ち出すものはリュックやバッグにまとめて、両手が使えるようにしてください。
- 家族には連絡メモを残そう。出かけている家族に「どへ逃げる」というメモを残してください。
- みんなで助け合おう。ひとりでは行動しにくい近所の人たちといっしょに、決められたところへ逃げてください。
- 安全な道を通って逃げる。川の近く、地下の道は、通らないでください。安全で広い道を通ってください。
- 逃げるところでは係の人の話を聞いてください。逃げるところに着いたら、係の人の話を聞いて、住所・氏名を伝えてください。

内水氾濫(降った雨が処理できず町にあふれる)のときの避難(逃げること)

内水氾濫(降った雨が処理できず町にあふれる)が起きたときには、考えずに外へ逃げるのはあぶないです。まずは、家の2階(垂直避難(高いところへ逃げる))や近くの安全な建物へ逃げて下さい。地下室や地下駐車場など地面よりも低い場所にいる時は、すぐに高い場所へ移動してください。仕方なく建物の外へ逃げる時は、内水ハザードマップ(危険な場所の地図)の情報を参考に、逃げて下さい。避難場所(逃げる場所)でも水につかることが考えられる場所もあります。

↑ 屋内安全確保(垂直避難)